

造形通信

2023. 11月
N065
ひいらぎこども園



感性をみがくとは

木々の葉っぱの色もだんだんと色鮮やかになってきました。待ちに待った『秋』です。色づいた木々の並木道を歩くのも気持ちがいいでしょう。落ち葉がいっぱいのところで、踏みしめた時の音を聴くのもいいでしょう。こどもたちと一緒に絵本を読むのもいいでしょう。おいしい秋の産物を食べるのもいいでしょう。やっとやってきた秋をこどもたちと一緒にいっぱいいたのしみたいです。

玄関には、こどもたちが作ったかわいい造形作品がたくさん並び始めました。おいしそうなケーキがいっぱいです。

色づいた木々の葉っぱの色、ふわふわ、カサカサした落ち葉の感触、匂い、澄み切った青い空。こどもたちは、自分の体全体で自然を感じ取っていきます。しかし、感じるだけでは「感性」は育つものではありません。感じたことを言葉や身体で表現すること、そして表現した思いに共感してくれる友達や先生がいることではじめて、『感性』は育っていくのです。葉っぱを踏みしめて「パサパサ音がするよ。」といったこどもの声を聴いて、まわりの子や先生が「ほんとだね。パサパサいってるみたい。」と言って一緒に踏みしめて楽しむ等、思いを受けとめる人がいること、思いを共有してくれる周りの人がいることがとても大切なのです。

~いっぱい遊んで

やっぱり 今年も

秋

いっぱい作って

はたのしい!



年少のこどもたちが太陽が丘に行きました。赤や黄色の葉っぱを拾ったり、木の実を拾ったり。落ち葉を踏みしめながら歩いたり、見つけた木の実を図鑑で調べたり、秋に親しむこどもたちの様々な姿が見られました。園に帰ってきてからもこどもたちの活動は続きました。



集める



調べる



並べる



飾る



つなげる



画板の上に思い思いに並べていくと、素敵な作品ができました。



おもものつるに色づいた葉っぱや実をつけました。素敵なリースができました!

